デーリー東北新聞社提供

デーリー東北
2026年（令和8年）11月8日（日曜日）（3）

人主役の空間づくり共有

八戸中心街活性化へフォーラム

八戸市の国道340号の三日町・十三日町区間で進める「中心街ストリートデザイン事業」の機運醸成を図ろうと、市と市中心市街地活性化協議会は7日、同市のはっちで「中心街まちづくりフォーラム」を開いた。約60人が講演やパネルディスカッションを通じ、人が主役となる空間づくりへの理解を深めた。（田村祐子）



パネリストが中心街の街路について意見を交わしたフォーラム＝7日、八戸市

講演では仙台市のNPO法人都市デザインワークス代表理事で定禅寺通エリアマネジメント専務理事の榊原進さんが、社会実験を重ねて滞在できる場所づくりを進めてきた経緯を説明。まちづくりを動かすには市民の「やってみたい」を実践につなげるコーディネーターの役割が大事だと指摘し「地域や行政、担い手が信頼関係を築き連携することが重要」と提言した。

パネルディスカッションには商店街振興組合三日町三栄会理事長の類家徳久さん、中心街で複数の飲食店を経営する中村望裕斗さん、八戸出身の大学生で「ベビーカー博士ちゃん」として活動する奥井ゆうかさん、講演講師の榊原さんが参加。八戸工業大講師の西尾洸毅さんが進行役を務め、中心街の現状や空間づくりについて意見を交わした。

奥井さんは「若者が学校外で挑戦できる場や活動を周知する仕組みが必要だ」、中村さんは「イベントの出店準備や費用負担の軽減が新たな店づくりにつながる」などと指摘。類家さんは「日常的に滞在できる場所を目指すことが重要で、若い人たちも斬新なアイデアを出してほしい」と呼びかけた。

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。